

春秋彩

Syunjusai

特集
「英語合宿
English コレジオ in 天草」…… 2

活躍する卒業生 ……………	7
国際交流 ……………	8
研究活動紹介 ……………	10
大学の動き ……………	12
後援会便り ……………	13
生き生き元気種 ……………	14
熊本県立大学未来基金寄付者ご芳名 ……	15
人事情報 ……………	15
おすすめの1冊 ……………	15



 熊本県立大学

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学風の四季を表している。

熊本県立大学広報誌

2013 AUTUMN

vol. 39

あいさつ



理事長
五百旗頭 真

家族・知友を愛し、郷土を愛し、この国を愛する人が、熊本には多い。私はそう感じている。それはとても大切なことだ。ただ、世界の中で生きる他ない日本だから、世界を知らぬ日本は危うい。日本史しか知らない日本人は、もしかしたら日本を知らないのかもしれない。「地域に生き、世界に伸びる」と県大が掲げるゆえんである。

若き日に世界を自分のフィールドにしていればよい。下手な英語で全然構わない。用を足せるようになればいい。何でも言ってしまうようになればいい。若き日に英語オンリーの10日間を仲間と過ごす県大生に幸多かれ!世界にはばたく明日への一歩となるように!



▲合宿施設前

特集

英語合宿 English コレジオ in 天草

天草から広がる世界

学生諸君は大学における外国語教育にどのような期待を抱いているのでしょうか。ある新生は大学教育の中でドイツ語、フランス語などの第二外国語に最も興味が惹かれると答えていました。高等学校では学ばない新鮮さに惹かれるようです。一方、グローバルスケールで活躍する人材に必要な英語、英語運用能力についてはどうでしょう。外国語の修得レベルは学部や学科で異なってきますが、学部教育では少なくとも世界の情報を収集し理解でき、英語でディスカッションできるレベル、大学院においては英語で世界に研究成果を堂々と発表、発信でき、的確な議論ができるレベルが求められています。本学の外国語に対する期待度は入学時においてやや低調であり、卒業時の満足度も決して高くない傾向が見られます。社会が要求するグローバル人材として活躍するには外国語能力が必須です。外国語を自主的、集中的に学ぶ LLC (Language Learning Commons) を設け、キャンパス内で異文化空間を体験できるコーナーとしているのですが利用者は限られているようです。



◀ 講師との談笑



▲ 英語でクッキング

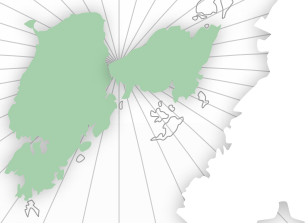


▲ iPadでの学習風景



◀ 天草観光プレゼンテーション

Amakusa



今年9月、「English コレジオ in 天草 2013」を天草市大江で開催しました。俗に言う英語合宿です。10日間、全ての講義、演習、実習科目を英語で行い、生活の全てを英語で過ごす survival camp でした。自分の意思を十分に言い表せない悔しい思い、逆に非常にうまく伝えることができた喜びなど、実践の中での体験が外国語学習のモチベーションに繋がるものと期待します。

天草西海岸は古くから東シナ海を通じ中国、台湾、東南アジアそしてヨーロッパとも交易がありました。我が国唯一のコレジオ（大神学校）が1591年から97年までは、天草河浦地区に置かれていたと言われています。コレジオでは神学、宗教学をはじめ自然科学の高等教育が施され、グーテンベルグ式活版印刷機を使い、イソップ物語や平家物語の天草本が出版されました。また明治維新以降、天草から海を越え、アジア諸国で活躍した人々の足跡も残されています。

今年度の合宿では、天草市の全面的なご支援を受け、旧大江中学校廃校施設を利用させていただきました。隣接する大江小学校は

150年以上の歴史を誇る学校でしたが、今年3月に閉校され、大江地区の人々は文教施設としての利活用を望んでいると聞いています。短期間であれ若者が集い、活動する事で地域が明るくなって来たのでは、と考えています。本学の人材育成の標語は「地域に生き、世界に伸びる」です。多くの廃校施設を抱える熊本県の地域にあってもグローバルレベルで物事を考える「地域密着型グローバル人材」育成の場としての活用法もあるのではないかと考えています。

天草市崎津の素敵な教会、大江の天主堂周辺はどことなく異国情緒を感じることができました。非日常的空間で English Life に浸り、東シナ海に沈む夕日を眺めながら、世界に夢を馳せた先人の熱い心意気を感じ取る事ができたのではないのでしょうか。

The more you learn English, the wider your world will be!

学長 古賀 実

English コレジオ in 天草 2013開催の概要

筆者 学術情報メディアセンター長、総合管理学部 教授
三浦 章
 文学部 英語英米文学科教授
吉井 誠
 文学部 英語英米文学科教授
レイヴィン リチャード

9月9日（月）から9月18日（水）までの10日間にわたり、天草町交流センター「ブルーアイランド天草」（旧大江中学校、天草市大江）で、English コレジオ in 天草 2013 と名付けた、学生向けの英語合宿を開催しました。本合宿のカリキュラムのコンセプトは次のようなものです。

- 1) 英語のみを使用し海外生活を疑似体験してもらう
- 2) 全学部の教員が参加し学部横断的な内容とする
- 3) IT機器を活用し効果的な英語教育を行う
- 4) 講義に新鮮味を持てるよう多様な内容とする
- 5) 南蛮文化を通し世界と接点を持っていた天草を学ぶ機会を設ける

合宿には、25名（男6名、女19名）の学生が参加し、学内外の17名の先生方により様々な講義を実施しました。開催直後は英語劇を通じて英語に慣れることに努め、理事長や学長の講話、マネジメントや環境問題等に関する講義、島内フィールドワークもすべて英語を用いました。学生は、全員に1台ずつ配布したタブレット端末を用い、講義に関わる文章作成やWEB検索に役立てました。

ゲームや映画、英語圏の文化、特に食文化に親しむ機会も設け、スポーツ大会、バーベキューパーティ、満月の下での花火大会、日没観察等のイベントもあり（もちろん、これらにも英語を使用しました）、学生にとって有意義でかつ、楽しい思い出作りができました。

さらに、9月16日には、現地に安田公寛天草市長がお越しくださり、英語による激励メッセージもいただきました。学生には強い励みになったことと思います。

2014年度は今年度の実施結果を踏まえ、学生のニーズに合わせて改善し、より良いカリキュラムを目指したいと考えています。

本合宿は、2013年度計画で構想を立ち上げて以来、4月中旬から5か月近くにわたり、多くの本学教職員が一丸となり企画したものです。円滑な実施に向け数回の現地調査も行い、生活環境面も快適なものとなるよう努めました。なお、運営に当たっては、会場であるブルーアイランド天草の関係者の皆様、天草市役所の皆様、フィールドワークでの訪問場所の皆様、紫苑会等、多くの方々にご支援・ご協力を賜りました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。



理事長講話



安田天草市長激励スピーチ



ロミオ&ジュリエット練習風景



朝の体操



英語でクッキング



合宿所厨房



英語でゲーム



英語でゲーム



学長講話



ケイジャン文化を学ぶ

参加者のレポート

Reports from the Participants

Report 1

文学部英語英米文学科
3年 津田 怜子

私はアシスタントとして参加させていただきました。最初は正直、10日間も天草の施設に缶詰ということと思うと不安でしたが、いざ参加してみると1日1日が楽しくてあっという間でした。このキャンプには英文科以外にも他の学科の学生が参加しており、学年も様々でいろんな枠を越えた交流をすると同時にそういったメンバーで10日間一緒に生活し英語を学ぶという経験はとても貴重で新鮮でした。

このキャンプの前半ではシェイクスピアの劇や英語での講義、BBQ、天草観光などが凝縮されていて、とても濃い内容でした。天草観光では天草のALTの方々が参加され、生の英語に触れることができました。

キャンプの後半では、海鮮BBQをはじめ、一日中ゲームをして楽しんだり、天草の綺麗な夕日をビーチへ見に行ったり、夜に皆で映画を観てキュンキュン(笑)したり、最後の夜には花火もしました。iPadを使ったアクティビティも充実していました。

毎回必ずとても美味しい食事で、ネイティブ英語講師の方々と一緒に各国の料理を作ったりもしました。日々の様々なアクティビティを通して、参加した学生の日常生活で使うボキャブラリーが増えていったと感じました。多くの学生が、このキャンプで何

かを得て、これから英語の勉強や自分の分野の研究など、何か改めて始めるきっかけになったのではないかと思います。



Report 2

文学部英語英米文学科
2年 野坂 梨奈

初の取り組みである天草での10日間の英語合宿で、「英語を学ぶ楽しさ」と「英語学習での積極性の重要性」を同時に痛感しました。

日常の英語が身についていく楽しさ、ネイティブ英語講師とのアクティビティ、各文化の有名料理の調理を通しての異文化理解、ゲームを通しての英語でのコミュニケーションなど天草にいても外国を疑似体験できたため、「英語楽しい!英語がやっぱり好きだ!」という気持ちを強くしました。

しかし同時に、まだまだ英語学習への積極性が足りないことにも気付きました。表現が分からないならば、恥ずかしがらず素直にHow do you say ~ in English? とネイティブ英語講師に問えばいいのです。その一言で私たちの英語表現は牛歩でも着実に進歩していくはずです。質問することを恥ずかしがった今までの授業での時間をもったいなかったなあと思います。

英語はどんなツールや行動を通してでも習得できることを合宿で学ばせてもらったことに感謝し、今後さらに自身の英語力を向上させていくことを誓います。企画・支援してくださった先生方、一緒に過ごしてくれたみんな、ありがとう!



今後の外国語教育見直しに向けて

熊本県立大学では、21世紀を生き抜く若者として、豊かな教養を備え、地域社会にしっかりと根ざしながら、同時に国際社会の発展に貢献できる有為で、創造性豊かな人材を育成することを目標としています。

本学のスローガン「地域に生き、世界に伸びる」が示すように、今後ますますグローバル化が進む世界の中で対応できるよう、特に本学の外国語教育について、語学修得の意識・意欲を高めて語学能力の育成を図るべく、現行の教育を見直すこととしております。

具体的には、修得すべき英語能力の全学的目標を見直し、それを踏まえて各学部・学科ごとの目標を定め、それに応じた科目のあり方、教育体制について検討することとしました。

なお、この検討は、全学共通科目、カリキュラムの体系等を中心に検討を行っている全学共通科目構想プロジェクトの下に、本年度より外国語専門部会を設置して、進めているところです。

LLC (Language Learning Commons)

LLC は学生のための語学学習スペースです。語学関連の書籍や雑誌、映画 DVDなどを多数揃えており、貸し出しをしています。パソコンソフトや iPad アプリ、海外のボードゲームなどを使った語学学習もでき、個人学習からグループ学習まで、幅広く活用されています。

- 基本情報**
- 場所：グローバルセンター2階
 - インターネット環境：Wi-Fi (学内 LAN)
 - 通常開館時間：8:40 ~ 17:40
 - 利用者：本学学生
 - 貸出：当日返却・LLC 内利用
 - 注意事項：グループ学習スペース外の飲食禁止



様々な機器をディスプレイに接続可能です。卒論発表の練習や勉強会に最適です。(要予約・使用許可)

プレゼンテーションスペース



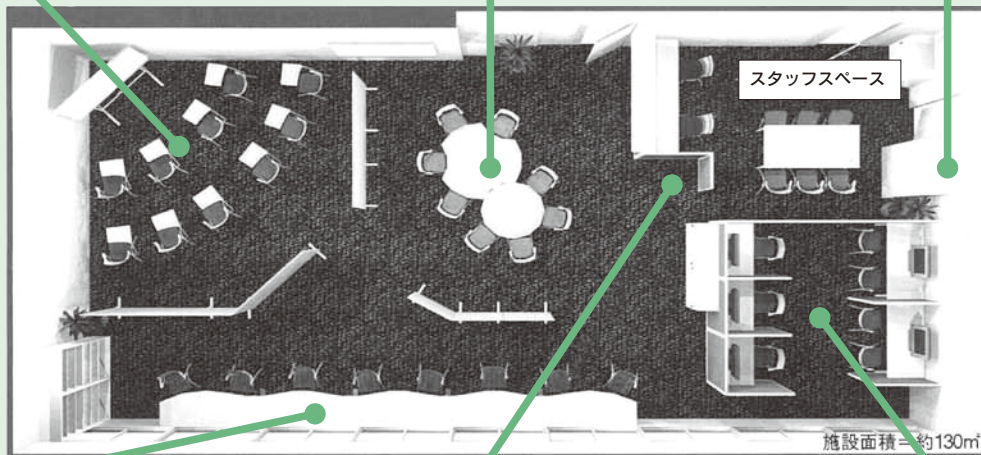
ディスカッションやグループ学習など、活用方法は自由自在です。飲食可スペースです。

グループ学習スペース



番組制作可能な機器 (録音・録画) を揃えています。(要予約・使用許可)

スタジオ



窓側学習スペース



外の景色を見ながら、学習。電源を設置しておりますので、パソコン等の電子機器の使用が可能です。

検索コーナー



iMacでLLC所蔵教材を検索できます。質問があればカウンターにいるアドバイザーに気軽に声をかけて下さい。

個人学習スペース



パソコン3台、DVD観賞用モニター2台を揃えています。独立ブースで、集中して学習できます。

ホームページ等

LLC ブログ：<http://llcpuk.org/LLC> スタッフによる語学学習アドバイス他、イベントの周知を行っています。
 語学教育部門 HP：<http://www.u-kumamoto.ac.jp/flec/> 施設案内、LLC 所蔵教材、語学検定試験、留学の情報を掲載しています。
 ブクログ (llca)：<http://boklog.jp/users/llca> 所蔵の図書や教材をウェブ上で共有し、誰でも閲覧することができます。
 Twitter：[@LLC_people](https://twitter.com/LLC_people) 新着雑誌などのお知らせや学習アドバイスをつぶやいています。

さまざまな分野で活躍する熊本県立大学の卒業生を訪ね、
現在のお仕事や、ご自身の学生時代について、語っていただきます。



株式会社フランソア
営業部 北九州エリア

岡村 成二さん

プロフィール

総合管理学部総合管理学科卒（平成 24 年 3 月）

現在の仕事内容

「こんにちは！フランソアの岡村です！」

営業先では元気良く挨拶することから始めています。

パンメーカーのフランソアの営業マンになって 1 年が経ちました。私はルート営業なのでチェーン店のバイヤーと商談したり、担当店舗訪問や店舗のパン部門を担当している方へ販売の提案やコミュニケーションをとっています。割り当てられたルートの責任者は自分しかいないので、お店で何か問題があれば自分が対応しなければなりません。厳しいご指摘を頂く時もありますが、提案した企画が好評だと御礼を言われる時もあり非常にやりがいを感じています。私にとってはパン担当の方と信頼関係を築けた時が何より嬉しく、やる気の源となっています。

現在課題に思っていることは店舗のパン担当の方へのコミュニケーションの在り方です。目指している関係は、私が訪店することで元気になると感じてもらうことです。そのために、カウンセリングやコーチングといった会話術を習い自分にしかできない営業スタイルを確立したいと考えています。

学生時代に学んだこと

学生時代に経験して良かったと思っていることが 3

点あります。その 3 点をまとめるとコミュニケーション力の向上と自信をつけることに繋がったということで、その経験が現在の仕事のやり方にも密接に関わっています。

1 点目は英会話に 3 年間通い続けたことです。英語を学べた以上に社会人のクラスメートと交流できたことがコミュニケーションの成長に役立っています。2 点目は長期休暇を利用しバックパッカーとしてヨーロッパを旅したことです。現地の人々と交流できたことや 1 人旅の経験から自信を持てるようになりました。3 点目はコンサルティング会社の講師を大学に招き、学生向けにセミナーを実施して頂いたことです。実現にあたり講師や大学関係者の方々、友人など多くの方々にご協力とご指導を頂きました。

大学時代にやって意味のないことはありません。何のためにやるのかしっかり理解していれば、趣味や勉強、アルバイトもどこかで話のネタになったり自分をアピールする材料になります。好きなことに思いっきり時間をかけて人生で一番楽しかったと言える学生時代を作っていきましょう！

活躍する卒業生



モンタナ研修旅行記 (8/8/2013 ~ 9/2/2013)

環境共生学部居住環境学科 4年

近藤 優

4年生とは就活や卒論が控えており、自分の将来と真剣に向き合う時期です。私にご縁に恵まれて3月に内々定を頂き、就職活動を終えました。そして残りの学生生活をどう過ごすべきなのかを一人悶々と考えていた時に ESL (協定校モンタナ州立大学への夏期英語研修) の募集を目にし、これだと思い応募しました。

このモンタナでの体験で私は2つのことが印象に残っています。

一つ目は世界を見たということです。青く大きい空とリムロック (岩山の崖) のコントラストは壮大で世界の広さを感じました。「世界ってこんなに広い」と実感した瞬間鳥肌がたちました。

イエローストーン国立公園は初めて見た海外での世界遺産だったので期待を胸に飛び込みましたが、期待を簡単に超えてしまう自然の力に日本語さえ出てきませんでした。人って感動すると視覚に集中するために黙ってしまうのですね…。

二つ目は自分の英語力の無さを思い知ったことと同時に言葉が通じなくてもどうにかなるということです。

英語に全く自信がなく、英語なんて映画でわかる単語を拾うことぐらいしかできない私が ESL に参加しました。米国の文化や伝統、プレゼンテーションの授業やディスカッション。もちろんすべて英語での授業、英語を話さなければいけないという環境は私を追い詰めました。建築家・安藤忠雄氏の「世界共通語は気持ちである」という言葉が私を支えていました。言いたいことが言えないからとにかく手や体を動かし、知っている語彙を必死に叫ぶ。聞くに堪えなかったと思います。授業が嫌で弱音をツイートする日々…。しかし私の不甲斐ない英語を理解しようとしてくれるホストファミリーや先生、ESL の人々に支えられながらプログラムを終えることができました。

こんなにも言葉が通じないことが辛いと思いませんでした。けれど言葉が通じなくても伝えたい気持ちが思いを届けてくれることを体験しました。日本ではオーバーリアクションも米国では自分の気持ちを伝える重要な手段。オーバーリアクションのおかげで私は3週間やりすごすことができました。

ESL に参加して、海外で過ごすことを体験し、言葉の壁・共同生活の難しさ・信頼感・仲間とか友達、そして家族というものはなにか日頃忘れていたことを考えさせられた3週間でした。

こんな経験簡単に出来るものじゃない。価値観や考え方が3週間前の自分と変わったと思うし ESL に参加してよかったと思いました。Thank you MONTANA ☺

こんな経験簡単に出来るものじゃない。価値観や考え方が3週間前の自分と変わったと思うし ESL に参加してよかったと思いました。Thank you MONTANA ☺



ビリングスの町並みをリムロックから見下ろした風景



ESLに参加した県大メンバー集合写真inイエローストーン

「ASEAN 経済共同体ユースネットワーク」訪問団と交流して

総合管理学部総合管理学科3年

宮本 真里

5月29日、「ASEAN 経済共同体ユースネットワーク」というプログラムでASEAN10カ国から計30名の大学生が県立大学を訪問した。総合管理学部の高埜教授のゼミで対応することとなり、私たち3・4年生のゼミ生と高埜プレゼミの1年生、合わせて約30名が交流に参加した。

13時30分、到着した一行を私たちは本部棟で出迎え、学内を案内しつつ総合管理学部棟の大演習室に移動した。古賀実学長が歓迎の挨拶をされた後、県立大学の紹介ビデオを見せ、私たち学生がパワーポイントを使ってクイズを交えた熊本の紹介を行った。ASEAN各国の学生からも自国の紹介を行ってもらったが、伝統的な歌と踊りを披露してくれる国もあり、大変盛り上がった。

その後、小グループに分かれてディスカッションを行う時間となり、私は日本人2人とラオス、カンボジア、タイから来た大学生と一緒に席に着いた。私は彼らに日本の好きなところを尋ねてみた。彼らは異口同音に「きれい」、「(人が)やさしい」、「(物事のやり方が)丁寧」などと言った。「女の子が可愛い」といったおちゃめな回答まで飛び出した。一方、日本の嫌いなところは、と聞くと一転して真面目な顔つきになり、政治経済や震災、とくに原発事故に話が及んだ。「福島は安全なのか、県産品を輸出しても大丈夫なのか」、「君たちはこの問題をどのように考えているの」と逆に質問を受けた時、私たちはちゃんと答えることができなかった。

また、将来何をしたいか？という話になった時、ASEANの学生は皆、自分の夢や目標を生き生きと語っていた。その際に、ある男子学生が「自分の国は貧しい。だから国を豊かにするために働きたい」と笑顔で話していたのが今でも忘れられない。あんなふうに夢を語れることが本当にうらやましいと思った反面、彼の背負っているものの大きさや凄さを感じ、自分はどうかのだ、と思うと恥ずかしくも思った。

日本は安全・安心が保障された、世界的に見ればある意味、特殊な国なのかも知れない。私たち若者は自分たちの考え方や物の見方が他国の人たちとは違うことを意識して、もっと広い視野を持って行動していかなければ、いずれ世界の人々と対等に話すことができなくなるのではないか、ということ強く感じた今回の交流だった。



班に分かれてそれぞれの出身国や日本についてのディスカッションを行っている様子



仲良くなったメンバーで記念撮影。今でもfacebookなどで交流は続いている。



最後にみんなで集合写真

江戸のサイエンスと東西交流



文学部 日本語日本文学科
准教授 **平岡 隆二**

Profile:
九州大学大学院博士後期課程単位取得。博士（比較社会文化）。
長崎歴史文化博物館主任研究員を経て、2012年より現職。

はじめに

私は学生時代から科学の歴史に興味があり、とくに江戸時代日本の科学知識について東西交流史の観点から研究してきました。

ここでは、これまで行ってきた研究の一部について紹介させていただきます。

科学伝来とキリシタン

日本は明治維新以降に西洋科学を国家的に導入し、現代では多くのノーベル賞科学者を輩出する科学技術先進国の1つとなりました。しかし、そもそも西洋科学が日本ではじめて本格的に教えられたのが、およそ400年前のキリシタン時代（1549-1650年）のことで、しかもその場所がここ熊本県の天草コレジヨだったということは、案外知られていないのではないのでしょうか。

キリシタン宇宙論の源泉の1つであるラテン語著作、クラヴィウス著『サクロボスコ天球論註解』（1593年ローマ刊）のタイトルページ。宇宙を模した天球儀の中心に「地球」が位置する。



当時の日本にはヨーロッパから多くの宣教師たちがやってきて、熱心にキリスト教を布教していました。やがてカトリックの修道会であるイエズス会は、日本人神父を養成するための教育機関としてコレジヨを創設し、天草には1591年から1597年までの7年間置かれました。そのカリキュラムの中に宇宙論 cosmology（現代の地学や物理にあたる内容）が導入されたことが、日本における本格的な科学教育のはじまりでした。日本人が、大地が平坦ではなく球体（すなわち「地球」）であることを初めて知ったのも、この時代のことでした。

しかしなぜ宣教師たちは、宇宙論のような科学知識を布教活動に導入したのでしょうか？ その理由は、意外にも、キリスト教における唯一絶対の創造・主宰神（デウス）の存在を、日本人に確実かつ効果的に伝道するためでした。西洋のキリスト教的コスモロジーの伝統では、「自然」（被造物）とは神が編んだ一篇の書物にほかならず、その書物を読み解くことで、神の存在やその御業を理解することができると考えられました。宣教師たちは、自然界の法則や秩序からデウスの存在を導き出す論法（デザイン論 Design argument）を、とくにキリシタンの初入者に対して多用しており、宇宙論はそれをより説得力ある形で展開するためのいわば「霊的道具」として導入されたのです。

われわれは普通、西洋の科学が当時の日本に伝来したと聞くと、「ヨーロッパの進んだ知識が、遅れている日本に伝えられた」と考えがちです。しかし、当時の西洋における「科学」そのものが、キリスト教と分かち難く結びつくなど、現代のそれとはかな

り異質な存在でした（西洋で科学が宗教から分離したのは19世紀以降のことです）。また当時の日本人たちも、それらを無条件に受け入れたわけではなく、彼らなりの自然理解に基づく反論を試みたり（その多くは決して「遅れた」ものではなく、なかなか鋭いものでした）、納得いくものに限って利用したりするなど、さまざまな反応や受容のかたちがあったのです。

われわれが漠然と持っている上のようなイメージからいったん離れて、当時の東西科学交流の実態を明らかにすることは、歴史研究として有意義だけでなく、日本における西洋近代のあり方や、今後の「科学」との付き合い方を考える上でも、より多角的で豊かな視点を提供してくれるものだと思います。



今春刊行した拙著『南蛮系宇宙論の原典的研究』（花書院、2013年）。日欧の一次史料に基づいて、キリシタン宇宙論の成立から後の展開までを論じました。

科学と人間

私が担当している「科学と哲学」「近代思想論」などの講義では、日本に限らず、西洋における科学・哲学的知識の系譜や（科学は哲学から生まれました）、キリスト教をはじめとする宗教との関係、また現代社会におけるさまざまな問題群との関連など、幅広い領域を取り上げています。

科学や哲学の歴史というと、難解な概念や数式を駆使するムズカシイ人たちの世界というイメージがありますが（実際そういう側面があることも否定しませんが）、その歴史を見てみると、彼らを突き動かしていたものは、この世界や人間が存在することの意味の探究や、社会をよりよいものにしたいという願望など、意外と人間くさいものであったことに気付かされます。



天草のキリシタン墓碑群「ペーが墓」（天草市五和地区、2012年8月）

その一方で、本来きわめて人間的な営為であったはずの科学技術が、現代では、環境問題や原発事故など、人々の生活を脅かすものとして立ち現われていることも確かです。このように矛盾した性格をあわせ持つ科学技術が、これまで歩んできた道のりと、あるべき未来の姿について、みなさんと一緒に考えることができたらと願っています。

これまでの研究や仕事についてはホームページにまとめていますので、興味のある方は是非ご覧ください。 <http://hiraokaryuji.web.fc2.com/>



天草研修旅行（2013年2月）。コレジオが置かれた河内浦（現・河浦町）にて。

大学の動き

AED取扱い講習会を開催しました！



8月8日(木)に、学内において「AED取扱い講習会」を開催しました。体育系サークルを中心とした学生及び教職員が75名参加しました。

当日は、熊本市東消防署から4名の職員の方にお越しいただき、最初に全体に向けて救命救急処置に必要な知識や技術を説明いただいた後、グループに分かれて胸骨圧迫とAED操作の実技を行いました。

参加者からは、「初めて救命の講習を受けたが、実際AEDやダミー人形に触れて体験出来てよかった。」「応急救護には、周囲との連携が大切だと感じた。」等の感想がありました。

「地域防災支援員養成講座」を開催

8月28日(水)、地域防災リーダーを養成する「地域防災支援員養成講座(主催:熊本県、共催:県立大学)」が本学で開催され、地域で防災活動に携わっている方々や本学学生19名を含む、総勢95名が受講しました。

山口大大学院准教授・瀧本浩一氏を講師にお招きし、ユーモア溢れる講話や防災マップづくりの実践等を通じて、平時に災害時のリスクを想定しておくことの重要性や、自主防災組織の運営手法等について学びました。



天文部が託麻南小学校で「星の観察会」！

9月13日(金)託麻南小学校で、「NPO法人熊本県民天文台」主催の星の観察会に参加しました。天文部は全学部約50名で組織され、当日は9名が参加し会の運営全般に活躍しました。会には保護者・児童等約250名が参加、少し雲が出ていましたが、夏の大三角形や上弦の月がきれいに見え、その美しさに皆感動の声を上げていました。参加した天文部前原理南子部長(総合管理学部3年)は、「感動的な観察会のお手伝いできてとてもうれしい。また、このような機会を作りたい。」と話していました。



軟式野球部が全国大会に出場しました！

軟式野球部は、5月に行われた九州地区大学軟式野球大会で優勝し、8月10日から14日にかけて長野市で開催された第36回全日本大学軟式野球選手権大会に九州地区代表として出場しました。県大チームは8月11日(日)に近畿地区代表の大阪体育大学と対戦し、1点を争う好ゲームを展開しましたが、3-3の同点で迎えた9回裏ツーアウト3塁からサヨナラ適時打を打たれ惜敗しました。日中の最高気温が37度を超える酷暑の中、選手たちは最後まで奮闘しました。





国立水俣病総合研究センターと連携大学院協定を締結しました

6月5日(水)、本学は、環境省国立水俣病総合研究センターと連携大学院協定を締結しました。

この協定により、本学大学院で学ぶ学生が、国立水俣病総合研究センターで教育を受け、同センターを拠点として環境問題や地域政策に関する第一線の研究に携わり、高度な知見を広げることができるようになり、大学院教育の一層の充実が図られることとなります。



八代市と包括協定を締結しました

6月25日(火)、本学と八代市は、様々な分野での相互協力を目的とする包括協定を締結しました。本学との包括協定団体はこれで17団体(下表参照)となります。

この協定により、本学学生のフィールドワークや研究の場が広がるとともに、本学が有する様々な研究・教育資源を活用し、「くまもと県南フードバレー構想」をはじめとする県南地域振興に向けた地域貢献活動や研究等が期待されます。

包括協定団体一覧

富士電機システムズ(株)	菊池郡大津町
阿蘇郡小国町	人吉市
球磨郡あさぎり町	上益城郡御船町
玉名郡和水町	熊本県農業研究センター
菊池郡菊陽町	合志市
天草市	玉名市
水俣市	上益城郡山都町
宇城市	八代市
菊池市	

(締結順：15 自治体、1 企業、1 研究機関)

後援会便り



今年度リクエスト図書にて購入した書籍の一部

後援会では、会員学生よりリクエストされた本を図書館にて選書後、同館の蔵書として購入しています。

「本は心の栄養」という言葉もあるように、大学時代に沢山の本に触れて、自分の人生の糧にして欲しいと思います。

毎年、100冊程度購入していますが、読みたい本が置いていない場合には、この制度を活用し、どんどんリクエストしてください。

※原則1点1万円以内、会員1人に付き累計で2万円以内

後援会とは

- 本学学生の保護者またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

後援会の事業 次の4つの事業を中心に学生の活動全般を支援しています。

《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策講座、ITパスポート試験対策講座、二級建築士受験対策講座、秘書技能検定対策講座等)受講料の一部助成または開催経費の一部助成
- PROGテスト(社会人基礎力の測定)開催経費の一部助成、TOEIC®IPテスト開催の支援及び受講料の一部助成、各学部による就職支援事業開催経費の一部助成、資格取得者への助成 等

《学生活動支援事業》

- 各サークルの活動費・白亜祭開催経費・全国大会出場経費等の一部助成
- 学生用コピー機の設置、コピーカード販売
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 等

《国際交流推進事業》

- 海外留学・研修期間に応じて渡航経費等の一部助成
- 留学対策講座の受講料の一部助成 等
- 英語合宿開催経費の助成

《教育研究助成事業》

- 学生共同自主研究への助成
- 国内学生大会等出場経費の一部助成 等

※途中年次であっても随時入会を受け付けています。後援会事業をご理解いただき是非ご加入ください。

活き活き元気種!!

このコーナーでは、サークル活動をはじめ、地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



ぶくにゃん*おはなし会

文学部日本語日本文学科2年 西村 ありさ (写真中央)

総合管理学部総合管理学科2年 麻生 陽菜 (写真右)

文学部日本語日本文学科2年 仲村 美樹 (写真左)

あなたは小さい頃、絵本の読み聞かせを聞いたことがありますか？ ぶくにゃんおはなし会は、子どもたちに絵本の読み聞かせを行っている、県立大学生によるボランティアグループです。主に、月出小学校で毎月2回ほど、小学校低学年を対象に読み聞かせを行っています。今年度は、新規メンバー募集に力を入れたこともあり、全学部学生とOB・OGの先輩方併せて約40名のグループになりました。私たち2年生3人が運営スタッフです。私たちの活動はまだ2年目ですが、活動歴の長い先輩方が読み聞かせをすると、子どもたちの食い付きが凄いこと。真剣に、そして楽しく聞いている様子が、今でも忘れられません。子どもたちをより絵本の世界に惹き込めるよう、1ヶ月に一度、読み聞かせの練習会を行い、腕に磨きをかけています。

読み聞かせをするにあたり、気付いた事がいくつかあります。1つ目は、4人のお兄さんが人気だということです。小学校に行くと、「ねえ、お兄さんは？」と聞いてくる子

もしばしば。おはなし会のメンバーでは、お姉さんが圧倒的に多いです。それでもお姉さんたちはめげません。お兄さんたちに負けないよう頑張っています。

2つ目は、読み聞かせはとても楽しいです。読み聞かせに行く前は、緊張と不安を抱えてしまいます。ですが、いざ子どもたちの前で読み聞かせを始めると、緊張が解け、だんだん楽しくなります。読み聞かせは、とても楽しい活動です。そして、やはり一番は子どもたちの笑顔が見れること！大学の講義などで疲れている時でも、子どもたちの笑顔を見ると、疲れが吹き飛びます。子どもたちが楽しみ、喜ぶ姿が、私たちの何よりの喜びです。

今年度はメンバーが増えると同時に、活動も、例年より活発になってきました。月出小学校のみならず、9月に県立図書館で読み聞かせを行うなど、小学校以外での活動も取り入れています。また、県立大学の図書館クラブのブログ「ぶくりぶ日誌」で、おはなし会の様子も載せています。ぶくにゃんおはなし会は、どんどん進化していきます。子どもたちがより絵本の世界を楽しめるよう、今後も楽しんで活動していきます。



5月 新メンバーを迎えての懇親会



※ぶくにゃんとは・・・

2009年に誕生した「ぶくにゃん」は、学内に猫が多いことから生まれた熊本県立大学附属図書館のマスコットキャラクターです。大学の名称「Prefectural University of Kumamoto」の頭文字PUK(ぶく)にゃんと名付けました。また、住所の「月出」にちなんで、頭に月の模様があります。図書館関連のいろいろなところに出没します。

- <好きなもの> 月見うどん・月見バーガー、
さんかくのイチゴ味のチョコレート
- <好きなこと> 食べること・読書(特に月の本が好き)
(図書館HPから抜粋)

熊本県立大学未来基金へのご協力に、 心よりお礼申し上げます。

熊本県立大学未来基金につきましては、平成25年1月1日から7月31日までの間に、下記のとおり、延べ個人12名、1法人・団体等の皆様から総額405,000円のご寄附をいただき、これにより平成21年9月8日設立以来の基金総額は、92,782,255円（申し出分を含む）となりました。これまでに、寄附いただいた基金は、CPDセンターの整備、熊本県立大学奨学金、創立65周年記念国際シンポジウム等に活用させていただきました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ご寄附をいただきました皆様に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

①お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者

(寄附金額別、五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。)

【個人】 5万円 黒野 利子
3万円未満 井上 三保子

②お名前のみ掲載を希望されたご寄附者

(五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。) ※○内の数字は、累積寄附回数です。

【個人】 浅川 裕之 篠津 多佳子 久保 直子 中尾 弘子②

③お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

【個人】 6名
【法人・団体等】 1団体



次期学長の選考について

現学長の任期が平成26年3月31日をもって満了するため、学長選考会議において次期学長の選考を進めておりましたが、10月3日に同会議より古賀実学長を選考したとの報告がありました(再任)。なお、任期は、平成26年4月1日から平成28年3月31日までの2年間となります。

名誉教授の称号授与

(平成25年6月6日授与)

田中宏尚氏 (元文学部教授、専門分野：臨床心理学)

篠原亮太氏 (元環境共生学部教授、専門分野：水環境化学)

渡邊榮文氏 (元総合管理学部教授、専門分野：行政学)

おすすめの 一冊



「あと少し、もう少し」

瀬尾まいこ、新潮社

誰もが通過する中学時代。どうして、あれほどに誰もがひたむきなのだろうか？

本書は、中学校最後の駅伝にかけるひたむきな夏を、襷をつなぐ流れて、それぞれの生徒の視点から描いた青春小説である。

駅伝大会本番と大会に至るまでの日々の回想が、学校生活、人間関係、中学生らしい葛藤などとともに実に巧みに描かれている。これは十数年間、中学教諭として勤務し、日々、生徒達に接していた瀬尾さんだからこそ可能な描写であろう。

各章で主人公が入れ替わり、それぞれの出来事が異なる視点で描かれながらストーリーは展開する。襷にかけるそれぞれの思いが交錯しながら、駅伝大会という共通の目標に向かって収斂していくが、果たしてレースの行方はどうなるのか？

あと少し、もう少し、みんなと一緒に走りたい。中学生の頃のひたむきさを思い出し、清々しくも懐かしい気分させてくれる一冊である。



環境共生学部環境資源学科
准教授 井上 昭夫





「原城攻囲陣営図」

本絵図は江戸時代最大の事件である「島原・天草一揆」(島原・天草の乱、一六三七―一三八)を主題としている。

絵図は現在の島原半島を、西を上方に配置しており、左手には一揆の舞台となった原城が確認できる。この構図には、肥後細川藩の陣営を強調し、読者に注視させる狙いがある。

それをさらに裏付けるように、諸大名のうち細川のみ「細川越中守本陣」「細川肥後守本陣」という書付が存在し、また、手前の海には細川の幟(九曜紋)のある小船が見える。

以上から、本絵図は少なくとも細川藩にゆかりのある者の手による作であると推定できる。このような重要な絵図は、原本の他に控えを作るのを常とするが、本絵図には印や書判などは認められないため、原本ではないと考えられる。

解説

文学部 准教授 大島 明秀
文学研究科卒業生 園田 悠

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行:熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096(383)2929(代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

再生紙を使用しています

